

解 説

A, 入館者にアンケートを求めるための日割（金曜日と土曜日と日曜日）について

(1) 金曜日に入館する者の意見, 土曜日に入館する者の意見, および日曜日に入館する者の意見は, 当然ちがってくるだろうと考えた。

金曜日は火曜日から金曜日にいたる, ウィークデイにおける閉館日を代表する一日としてとらえ, 土曜日と日曜日は一般社会における半ドン及び全体の日に閉館している特殊事情を考えての上である。

(2) そこで次におこる問題は, 連続した金, 土, 日曜日をえらぶか, それとも連続しない金, 土, 日曜日をえらぶか, ということであったが, だいたいにおいて今まで, 土曜日の入館者はかなり多数日曜日にも入館するという傾向があるので, このいわゆる常連ともいべき利用者を除外して集計すれば, 連続した金, 土, 日曜日であってもその特長はつかめるだろうと考えた。

(3) 実際に調査したのは, 昭和34年もおし詰まった12月25日(金), 26日(土), 27日(日)の三日間であったが, 調査し終って見て, やはり連続した金, 土, 日曜日をえらんで何ら差支えなかったと思う。

むしろ, どのくらいの利用者が, 金, 土, 日曜日と連続して入館してくるものか, だいたいのところであるが副産物として知ることができた。

(4) 高校生以上の入館利用者で, アンケートに答えてくれた者, 及びその回答から実際に集計できた数は, 次のとおりである。

	入館者	回答者	有効票
(金)	334人	283人	280票
(土)	357人	271人	264票
(日)	400人	148人	147票

(5) 日曜日において特に回答者が少ないというのは, 前々日(金曜日)または前日(土曜日)においてすでにアンケートに答えているからである。

しかし回答者の全員が当日(日曜日)だけの入館者ともいえないし, 回答しない者の中にも当日(日曜日)だけの入館者も若干はおるわけである。いずれにしても楽な気持ちで回答してもらったのであるから, 回答者の自由意志が十分に表現されていると見ていい。

(6) さて, 金曜日と土曜日と日曜日のそれぞれの異った意見であるが, 残念なことには, 予想したようには金曜日と土曜日の著しい相違点は発見できず, むしろ金曜日と土曜日は程度の差だけであって, わずかに日曜日だけが前二者に比べて少しちがっているといえる。

(7) その第一点は, 「日曜日を休館されては困る」と答えているのが, 日曜日は71%であるのに対して, 金曜日と土曜日は60%及び62%であって, 困る度合が非常に低い。

(8) 第二点は, 上記の第一点を裏づけるものとして更に重大である。

「ウィークデイにおける開館時間を延長したら差支えありませんか」という問に対して, 日曜日休館は「それでも困る」が日曜日の回答が全体の47%であって, 金曜日と土曜日の39%及び43%を遙かに越えている。いやそればかりでなく, 「それならよい」及び「それならますますよい」の合計(44%)を越えている。

ところが, 金曜日と土曜日は「それならよい」及び「それならますますよい」の合計が47%及び44%であって, いずれも「それでも困る」のほうが低くなっているのである。

(9) そこで, 三日間を通しての意見はどうか, ということを更に総計票の上で見ると「それでも困る」は43%であって, 「それならよい」及び「それならますますよい」の合計46%より低いことがわかる。

(10) もう一つ, ここで注意を喚起しておきたいことがある。それは第二問に対する第四の回答であるが, 「開館時間を延長してもしなくても, そんなことはどうでもよい」という答えの性格である。

第一問に対する第四の回答「日曜日を休館してもしなくとも, そんなことはどうでもよい」という答えよりも, 金, 土, 日曜日を通して増加しているのを見ると, やはり何かある意味をもっているように思う。つまり消極的ながら日曜日を休館することに対して支持を与えている, と見てよい。

「それならよい」, 「それならますますよい」は, とくに積極的な日曜日休館を支持する者と見, 「どうでもよい」は消極的支持者と見ていいように思う。

(11) 以上のように見ていると, 日曜日休館支持者は, 予想に反して過半数を占めることになる。

つまり積極的支持者46%, 消極的支持者11%, その合計57%となって, 調査前に予想された「絶対反対が過半数を占める」という意見は, はっきりと覆ってしまった。しかし, これは, 改めというまでもなく, 条件づきなのである。

ウィークデイの開館時間も延長しないで, 日曜日を休館することは63%が反対しているのである。

(12) 調査者に対して回答者がわざわざ口頭及び文書をもって申入れをなした要点は, いずれも「ウィークデイの開館時間を8時から9時くらいまでは是非延長してほしい」という願いである。とてもそこまでは不可能にしても「6時までの延長では僅かに30分の延長であって, それでは公共図書館の使命を自ら放棄するものではないか」と強く反対する人もあった。

(13) だが, 大勢としては, 日曜日休館を案外スムーズに受入れる傾向が感知されるが, それだけに図書館人としては, 例えば, 福島市以外に在任する勤労者各位にみられるように, 「日曜日しか利用できぬ人々に対しては新しい工夫を生み出さなければならぬ」と強く反省させられた。